グランファーレ札幌山鼻を計画

日本グランデ　12月上旬着工へ

日本グランデ（札幌市中央区大通西5丁目1の1、平野雅博社長）は、分譲マンションのグランファーレ札幌山鼻新築を計画し、自社で設計を進めている。12月上旬の着工を予定。今後、施工業者の選定に入る。

規模はRC造、地下1地上11階、延べ4663平方㍍で構想。住戸は3LDK20戸、4LDK20戸の計40戸。グランファーレシリーズで標準設備となっている、携帯電話を用いた非接触IC電子錠システムなどを備える。駐車場は41台分を設ける。

建設地は札幌市中央区南18条西9丁目687の5。一帯は閑静な住宅街で、札幌市電静修学園前駅や、札幌南高から近い。

完成は2012年1月ごろを予定。

VE活用の今 ❶

ユーザーが求める製品やサービスの機能・内容に対し、最少のコストで提供できるよう組織的に検討するバリューエンジニアリング（VE）。日本VE協会の2010年度VE活動優秀賞に、建設技術研究所（本社・東京）など3者が選ばれた。社会資本整備での活用はもちろん、顧客サービスの向上や経営安定化など、VE手法の応用は年々その幅を広げている。多様化するに関する行動指針」を受け、VE資格者の養成などの取り組みを始めた。

現在は、基礎知識を備えるVEリーダーが188人、専門家のVEスペシャリストが全国屈指の13人、専門家のVEスペシャリストが全国屈指の13人という。

建設

混同されるケースが多く、説明に苦労した」（山下幸弘技術本部上席技師長）

る。しかし、当初は「設計照査とVEを

その上で「建設事業はすべてが単品生産。それぞれ住民の意見や環境が違う。ここが建設業のいい点であり、難しさや面白さだと思う」という。

09年度までの3年間で設計VE支援業務を33件受注した。しかし、コスト縮減効果は「頑張っても30%ぐらいだった」と、ここでも建設業の難しさ

重要になるだろう」と手応えも感じている。そうすることで、使用者（国民）の要求を満足する大胆な機能も期待できるという考えだ。

「設計の中にVEを活用する提案型の業務を強化し、技術の差別化によりコンサル業務の領域を拡大していきたい」と抱負を語す。

「開発山下技

務店で着工した。

規模はRC造、4階、延べ2128平方㍍。増築部分の定員は特養50人、ショートステイ4人で、既存施設と合わせた特養の定員は110人となる。1階は既存施設の入り口につながる斜路や倉庫などで、2階から上層に居室などを配置する。

建設地は法人所在地にある既存施設隣接地。設計は、しんぼ建築設計室。2011年3月15日の引き渡し、同4月1日のオープン予定だ。

伴う、従業員の求人増加が見られたことなどがある。

道内の有効求人倍率は、08年後半のリーマンショック前には0・45倍あったが、09年4―6月期には0・32倍まで下降。その後は回復を続け、10年7―9月期には0・41倍、直近の9月末では0・43倍となった。

この間、輸出関連企業のウエートが大きい全国の有効求人倍率は、0・8倍から0・4倍程度に急下降。現在は0・5倍

経審　申請　評点アップ　コンサルは
北海道建設業許可代行
北海道建設業経営事項審査
斉藤税務会計事務所
011-783-1277

どでの求人増のほかに、医療・福祉関係労働者の平均勤続年数が全国平均より短く、景気に関係せず求人数がほぼ安定していることが挙げられる。

雇用動向の先行きについて同支店では「プラス、マイナス両面の不確実性が存在する」と説明。札幌駅前通地下歩行空間開通をプラス要因に「駅前通沿いで新規テナントの出店が進み、求人数が増加する可能性がある」と分析。一方で、公共工事予算の縮小、円高の進行や海外経済不振、政策効果切れに伴う個人消費の落ち込みをマイナス要因として挙げている。

宇平直史支店長は「雇用環境は最悪期を脱し、緩やかに回復に向かっている」と話している。

ボール世界選手権開催地が苫小牧市に決まった。世界ブルームボール協会が、オーストリア・インスブルックで1日から6日まで開かれていた、今大会の理事会で決定。アジア初の世界選手権が苫小牧で開かれることにな